

## 平成 23 年度 第 1 回 平塚市博物館協議会 会議録

### 開催日時

平成 23 年 8 月 30 日（火）9 時 30 分～12 時

### 開催場所

平塚市博物館 特別研究室

### 会議出席者（敬称略）

会 長 立山洋典

副会長 牧野久実

委 員 村松芳雄、石綿進一、毛利加代子

事務局 鷹館長、澤村館長代理、縣館長代理、塚田学芸員、市史編さん担当村田主査

### 会議の概要

#### 1. 館長あいさつ

館長 前回の 3 月 11 日はちょうど震災さなかの協議会となり、その後も震災対応等のために協議会が延期されてきて、今回設定させていただきました。その後の我々の活動につきまして忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。なお、学芸担当で新たに採用された塚田学芸員を紹介いたします。前後しますが管理担当の縣担当長を紹介いたします。

#### 2. 会長あいさつ

会長 3 月 11 日は忘れられない会議の日となりました。自宅に帰れず野宿も覚悟しましたが、人の善意のありがたさを味わう得がたい経験をしました。本日は委員の欠席者は無く、会議が成立しています。

#### 3. 議 題

(1) 新プラネタリウムについて

(2) 報告事項等について

1. 平成 23 年度 8 月までの事業について

2. 外壁修繕工事について

(3) 今後の事業計画について

冬期特別展の概要

(4) 『平塚市史 10』（通史編 近代・現代）の発刊について

(5) その他

事務連絡（次回日程調整）等

#### 4. その他

プラネタリウム、夏期特別展見学・説明

以上の議題（1）について澤村館長代理が協議会資料により説明。

〔質疑応答〕

委 員 新プラネタリウムで観覧者数が倍増したのは期待が大きかったのであろうと思います。

担当者として新しい投影機の扱いなど、今までと比べ、どのような感想をお持ちですか。

事務局 投影機の手動の操作性については従来の機器と遜色ありません。良くできていると感じ

ています。映写については、星は期待以上に綺麗です。光源が変わったことや原板を作る技術の向上が影響していると思いますが、当館のドームへのチューニングも良好で、担当者として良い投影機だと思っています。一番向上した点は、全天周に映し出す映像が非常に高精細で、明るく綺麗に写すことができ、お客様方にも非常に好評です。現段階で、基本的なプラネタリウム投影を行なう上での性能としては満足していますが、投影を行うことに迫られていまして、色々な機能を使い込むまでに至っていません。今後の課題です。

委員 全体の予算のなかで、プラネタリウムの電気代はどのくらいを占めるのでしょうか。

事務局 電気代という形で統計は出していませんが、光源が低電力で済むものになり、使用電力は小さくなりました。

事務局 およそ10分の1以下になっています。ビデオプロジェクタなども入り、なかなか数字は出しにくいですが、印象としてはLEDを使っているのがかなり違うなと感じています。以前はハロゲンランプなどの熱を冷やすための空調も必要でしたので、その費用も高かったと思いますが、そういう点も含めて省エネ化されていると思います。

事務局 機器の更新と共に場内照明もLEDに替えましたので、それもかなり違うかと思います。

続いて議題(2)1.について澤村館長代理が協議会資料により説明。

委員 平塚学講座ですが、これは今年度限りの企画なのか、それとも今後も何年間か続けてゆく事業なのでしょうか。

事務局 我々としても、まず新しい行事を試みとしてやってみようと思案しました。その時点では、来年度以降についてはまだ予定していませんでしたが、今年度、抽選などで参加いただけなかった方への対応を含めて、来年度については検討していきたいと思っています。

委員 各分野1回ずつということですが、どのような分野ですか。

事務局 考古、歴史、民俗、地質、生物、天文の分野がありまして、全体をまとめるような講座が必要ですので、全8回となっております。

委員 各自治体の博物館というのは、地域性を持った展示や関連した講座を開いていて、地域性ということが非常に大事であると思います。そのなかで、今回、平塚学講座という良いネーミングがなされたわけですが、従来からの事業との特色の違いはどこにあるのか、なぜ平塚学講座なのか、といった質問にスッと答えられるような、事業の意義付けを前面に出した形にすると分かりやすいのではないのでしょうか。

事務局 従来、個々の分野の事業で続けてきた中では「相模川を歩く」というものがあります。これは複数の分野が一緒になって、館のテーマである「相模川」を歩きながら、状況を見聞き情報を集めていこうというものでした。これが事業の一つのモデルであったのですが、最近、座学的な講義による知識普及を求める方が多くいらっしゃるということで、複合的・総合的に地域を紹介する普及事業として、講義の形で行うことにしました。その狙いを「平塚“学”講座」というネーミングに込めたつもりです。これまで「相模川を歩く」をはじめ、金目川流域をテーマにした特別展などでも複合分野の協力体制による事業を行ってきましたが、従来との違いは、複合的な分野で色々な角度から地域にア

プローチしていこうという姿勢を強く打ち出している点です。個々の講義の担当学芸員も、この狙いを意識してテーマを設定していこうという約束で進めております。

委員 総合博物館の利点がそこに反映されているということですね。定員 50 名のところに応募 170 名というのはすごい反響ですが、特徴としてどのような方々が応募されていますか。

事務局 余りに大人数で一言ではまとめにくいのですが、年齢構成としては年配の方が多くことは確かです。また子供の頃から博物館にいらしていた方が大人になり、子供の頃の博物館での体験の意味が理解できる世代になって応募されている場合もあるようです。決して偏っているわけではなく、色々な年代の方から応募をいただきました。

委員 春期特別展（「深海から生まれた湘南」）がありましたが、今回の震災による津波を契機に、地域の方々の中に、地形的にも平塚地域にあれだけの津波が来たらどうなるのだろうか、というような関心がありましたか。

事務局 会期中に多くの問合せをいただいた中で、津波に関するものが非常に多かったです。特別展とは離れますが、過去の関東大震災や江戸期に遡るもの、文書に残っているものなど、博物館で把握しているものについては、博物館のHPに掲載するなどして、知っていただけるように努力しています。

事務局 2007 年の特別展「平塚周辺の地盤と活断層」も中越地震の直後に関心が高かったのですが、その図録の付録で平塚全体の地盤の状態が一目で分かる「地盤図」が今回も関心を呼び、全て完売となりました。そこには津波のことは出ていないのですが、平塚の場合、津波災害を考える前に、本来は関東大震災のような直下型の地震被害をきちんと想定しないといけない地域だと思います。実際の津波災害の記録については、平塚では中世以前の古文書が無いので、残念ながらそれほど詳しくは残されていません。今回のM9の地震についても想定できたはずだという意見もありますが、想定のための資料の洗い出しが終わらないと、この辺の地域について、津波も含めて、博物館として明確な情報を提供することも難しい問題ではないかと感じています。想定よりむしろ地震災害についてきちんと認識していなければいけないと思います。

委員 収蔵物が置かれているのは、館の建物の上階でしたか。

事務局 2階と3階に収蔵庫があります。

委員 ほとんど被害は無かったですか。

事務局 展示物ではパネルで落下したもの、模型で倒れたもの、岩石資料で落下して接合部分が剥がれたものがあり、土器で落下しかかったものもありましたが収蔵庫の大きな被害はありませんでした。

委員 博物館の大切な資料が、地震などで、どの程度の状況下でどうなるのか、想定が難しく大変でしょうが、こういう対策をしていますよ、と分かるような形で見せていただくと非常にありがたいです。長年かけて集めてきた資料が一時にしてだめになってしまうということがありますので。

事務局 落下防止対策は一時期とったのですが、それ以降収蔵物も増えまして、増えた分についてはきちんとした地震対策がしきれていないのが現状です。何らかの形で、できる範囲

の地震対策をしっかりと進めていきたいと考えています。

委員 建物そのものの耐震チェックはなされたことがあるのでしょうか。

事務局 平成 21 年に耐震診断を二次診断まで実施し、あまり芳しくない結果が出ています。その後、きちんとした補修のために三次診断が必要ということで、予算取得のために見積もり依頼の協議を重ねています。他にも公民館、図書館、美術館などがありますので、こうした社会教育施設、公共施設について市全体で順番を検討し、まず最初に学校の耐震工事を進めました。それが終了していよいよこれから社会教育施設に取り掛かるという状況です。

委員 コンクリートの強度で宜しくない結果が出たというのは、年数がだいぶ経ったからか、それとも建築時の基準は満たしていても現在の基準に合わないということでしょうか。

事務局 1976 年の建築ですので、耐震基準自体も変わり、強度的に今の基準には合致していないという結果が二次診断で出ています。ではどのように補強すべきかということで、三次診断に向けて、耐震構造にするのか、免震か制震かという点を含め、館の構造や展示物をどうするのかということを考えながら協議を進めています。このままの形で補強工事をするのは難しい状況でして、資料や展示物などを移動し保管する必要がありますので、費用も手間も相当なものになります。その手順などを探っているところです。

委員 1 階の展示はリニューアルの時に作り直すことができそうですが、2 階の展示物は直下型の地震で壊滅的な被害を受けると、もう二度と作ることができない平塚の文化遺産です。前にご意見が出たように、建物の耐震工事以前の問題として、できる限り手間暇をかけて展示物に対する配慮をしていただきたいと思います。

事務局 阪神淡路大震災のあとに展示物を守ろうということで、一番大きいものが民家だったのですが、博物館の建物が大丈夫でも民家がつぶれるおそれがありまして、民家の耐震補強をしました。展示ケースのガラスの飛散防止もしましたが、展示物の一つ一つについては、固定すべきか免震台にするべきかといったこともありますし、倒れそうなものは倒れないような対処をしました。今回の揺れでも展示品で壊れたものはありませんでしたので一応の効果はあったかなと思います。ただ、想定されている関東震災のような地震の揺れに耐えられるように、もう一段の見直しをして免震台やケースなども含めて考えたいと思っています。その時期については、おそらく耐震補強工事やその後の展示替えの時になろうかと思っていますが、極力できるところからやっていきます。耐震工事については非常に大きな問題ですので、一応 28 年度を目指して動き出したところです。

続いて議題 (2) 2. について縣担当長が、(3) について澤村館長代理が協議会資料により説明。

委員 冬期特別展ですが、借用交渉先などの情報を事前に得るだけでも大変だと思うのですが。

事務局 現地へ星まつりを調べる会の会員の方々と何度か足を運んだり、館の『自然と文化』に何回か報告するなど、これまで取材を積み上げてきた成果を展示でご覧いただく流れになっています。

委員 以前、だるまの特別展で扱われていた少林寺も星まつりに関連するお寺ではないかと思っています。今回の特別展で最乗寺が中心となっていますが、灯籠も明かりとしての機能よ

りも、星が人々を導くという宗教的意味合いが強いようで、とても興味深く感じます。

事務局 おっしゃるように少林寺も星まつりに関係がありまして、今回は二十八宿を中心に、色々な星が信仰に絡んでいることをご覧いただきたいと思っています。そのなかで少林寺も多少ご紹介できると思います。また、なぜ灯籠なのかということが最乗寺さんの信仰の形と深く関わっていますので、最乗寺さんが参道の二十八宿とともに展示のメインとなるところです。残りのうち半分がそのほかの星の信仰、もう半分が二十八宿とは何だろうという天文の話になります。

委員 大山灯籠もありますし、灯籠一つをとっても色々派生してゆく興味あるテーマですね。

委員 こういうテーマですとミュージアムグッズがいくつもできそうですね。こちらでは素晴らしいガイドブックは作られていますけれども、特別展ごとにそういうミュージアムグッズを作ったりはしていませんか。具体的には、この冬期特別展ではどうでしょうか。

事務局 博物館事業として刊行物の作製と頒布は保証されていますが、グッズなどの物品販売を行うのは難しいところです。今回の冬期特別展は従来のように図録の作製と頒布のみを予定しております。

続いて議題（4）について村田主査が協議会資料により説明。

委員 市史刊行の残りはあと何巻ですか。

市史編さん 残りは3冊を予定しております。内容は「別編 宗教」として寺院などの2冊と年表編とで合計3冊になります。

委員 今回は何部ぐらい作って、どちらに配布されているのでしょうか。

市史編さん 全部で1700部作製し、一般頒布は1200部、500部は関係諸機関の自治体や図書館、大学など研究機関等にお送りしています。

委員 市史は博物館でまとめられたということですか。

市史編さん 組織上、博物館の一担当として市史編さんがあり、私の上司は館長です。

事務局 市史編さんは他の市町村では市長部局で行われることが多いのですが、博物館が行っています。

委員 大変な仕事であろうと思いますが、博物館で担当されているというのは驚きでした。

事務局 市史編さんというほぼ独立に近い担当ですので、そこに学芸や管理が直接関わることはほとんどないのですが、大変な作業ですので何年かに一度という形で刊行しています。

委員 この地図は市史と一緒にのものですか。

市史編さん 袋に入っているのが市史の附録で昭和35年の平塚復興都市計画図です。黒字が戦前の道路で赤茶色が現在の道路です。平塚に由来から住んでいる方には懐かしいものではないかなということで附録としました。

議題（5）その他

次回日程は12月1日（木）午前10時～を予定。